

花巻市立花巻小学校

授業実践公開研究会

研究
主題

一人一人の学びを深める授業の創造

～教材・自己・他者をつなぐICT機器の活用による協働的な学びを通して～

目指す子ども像

友達や教師との対話を通して課題を追求し、自ら学び続ける子

「協働的な学び」によって
「学びに向かう力・人間性等」を育む授業づくり

聴く

- 子どもの言葉を
- テキストの言葉を
- 板書とのつながりを
- 既習とのつながりを
- 今後の学びを

つなぐ

- ◎ 教材と
- ◎ 自己と
- ◎ 他者と

もどす

- テキストに
- 前の課題に
- グループに
- 全体に
- 根拠に

授業におけるICT機器の活用の工夫

課題把握場面 課題解決場面 学び合い場面 振り返り場面

学級経営による「聴き合う関係づくり」の構築

願い

- ねばり強く学習に取り組み、自分の考えや学びを深めさせたい。
- 適切かつ効果的に課題解決しようとしたり、自分の考えを発信しようとしたりする力を育てたい。

◆ 「つなぐ」視点

「つなぐ」とは、教材と子ども、ある子どもと別の子ども、ある知識と別の知識、昨日学んだことと今日学ぶこと、教室で学ぶことと社会の出来事、教室の現在と未来、あるグループと別のグループの話し合い、これらをつなぐことと捉える。一人ひとりの疑問や気付き、考えをつなぎ合わせたり、似ている点や違っている点を響き合わせたりすることで、子どもたちの学びが深まると考える。

「自己」とつなぐ

過去の自分と現在の自分をつなぐ

- これまでの自分と本時で学んだ後の自分をつなげて考える。



3年道徳 教材名「なかよしポスト」

これまでの自分や学級の様子を振り返り、これからどのように行動したらよいか考え、実生活へと促す。

既習と社会をつなぐ

- これまで学習したことと身の回りの生活や環境と関連付けて考える。

6年理科 単元名「電気と私たちの暮らし」

豆電球と発光ダイオードを比較し、発光ダイオードの特長をとらえ、どのように日常生活に生かせるか考えさせる。



「教材」とつなぐ

子どもとテキスト・板書をつなぐ

- 教材と子どもの出会いをつなぎ、その後の学びを深める。
※ テキストとは、教科書にとどまらず、学習シート・資料・図、表、グラフ・具体物・挿絵・映像等全てを指す。

5年体育 単元名「マット運動」

マット運動の動きのポイントを示した動画と自分や友達の動きを照らし合わせるようにする。



2年国語 教材名「わたしはおねえさん」

物語文の挿絵とセンテンスカードを視覚的に示し、話の流れをつかみやすくする。



今日学んだことと既習をつなぐ

- 「今日学んだこと」と「これまで学んだこと」をつないで学びを深める。

花小の子ども

「他者」とつなぐ

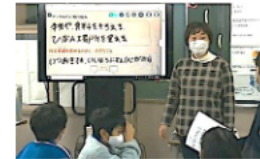
子どもと子どもの考えをつなぐ

- 子ども同士の考えをつないで学びを深める。

4年社会

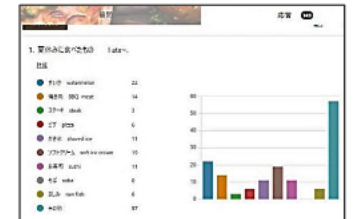
単元名「自然災害からわたしたちの暮らしを守る」

自然災害から命を守り、安全な生活を送るためにできることを考え、グループで共有する場をつくる。



6年外国語 単元名「Summer Vacations in the World」

Microsoft Forms を活用し、自分のことを伝えたり相手を知ったりできるようなインタビュー活動を多く行い、回答回数を視覚化する。



子どもと指導者の考えをつなぐ

- 子どもの考えと指導者の考えをつないで学びを深める。

ICT機器活用の工夫

課題把握場面	課題解決場面	学び合い場面	振り返り場面
課題意識を高めるための資料や既習内容等を提示する場面	課題を解決するための情報を得たり、調べたことを自分で整理してまとめたり、表現したりする場面	他者の考えを共有し、比較したり分類したりする等の思考を深める場面	学びを振り返り、学んだことをまとめたり、さらに発展させたりする場面

< 学習内容の視覚化 >

どんぐり 今日の学習(きょうのがくしゅう)

	名前	名前	名前	名前	名前
①	すうじパズル	カレンダー 日づけとようび	ひらがなならべ	計算ドリル (算数ドリル)	漢字テスト
②	ペダボード	かずといくつ プリント	かずといくつ プリント	作文続き	算数プリント
③	せんたく ばなみ	おんどく	パソコン ひらがなれんしゅう	総合 パソコンで まとめ	計算ドリル (算数の力)
④	パズル	おんどく	せんなぞり ぬりえ	ほんよみ	精密ブロック

< 学習内容や活動のパターン化 >

読む

書く

数える

< ICT機器の活用 >



ロイロノートのカードで作成したひらがななぞりの練習

成果と課題

【成果】

○ 「自己」とつなぐ

学びを蓄積したり、可視化したりしたことによって、子どもたち自身が学んだことよさに気付くことができた。

○ 「教材」とつなぐ

動画や写真・カードなどの視覚的な資料を提示することによって、学習の意欲付けを図ることができた。

○ 「他者」とつなぐ

学習支援ソフトやアプリの提出機能やアンケート機能を活用したことによって、多様な考えを共有することができた。

【課題】

- ICT機器を活用した授業では、各教科において身に付けさせたい資質・能力を育成するために、ねらいを意識して、更なる効果的な活用の仕方を見出していきたい。
- 「自己」「教材」「他者」とつないだ後、さらに、教師の発問を吟味し、改めて「聴く」「もどす」を意識した授業づくりをしていかなければならない。